



とらいあんぐる



2022 年 3 月

一音会ミュージックスクール発行

「ドリルの学校」

止まっていた時計が動き出すような瞬間があるものです。

5 年ほど前、私にも、唐突にそんな瞬間がおとずれました。

私の母、江口寿子は、20 代で難病におかされ、以降ずっと、身体が不自由でした。移動は車椅子でした。

母は、1 日のうち、ほとんどの時間を、自室のベッドで過ごしていました。

仕事をする時も、ベッドから身体をおこして作業をする形です。

母が 70 歳で亡くなるまでの数十年間、1 日中、すごしていた部屋は、母の寝室であり、母の仕事場でもありました。

10 年前に、母が急死した時、私はすぐにその部屋を封印してしまいました。母の身のまわりのものだけでなく、仕事に関するものも、思い出も、何もかもすべてがつまった部屋です。

見たくなかったのです。

母の部屋以外のところで、母の持ち物を見つけると、あわてて母の部屋に放り込みました。

部屋の中を見ないように、あわてて扉をしめて、カギをかけました。

いつか整理すれば良い。

そう思っていました。

いつか、そういう気持ちになった時に……。

でも、そんな時は来ないだろうということも、心のどこかで分かっていました。

心弱い私は、「いつか、いつか……」と思いながら、それを一寸のぼしにしていたのです。

その部屋は、母が亡くなったその日から、何も変わりません。いうなれば、「時が止まった部屋」です。



その空間の平和を破る出来事がおきたのは、約5年前です。

ある時、母の部屋の扉が細く開いていることに気づきます。しかも、部屋の中で、ガタガタと何かが動いている音がします。

猫です。

面倒なことになりました。

なぜカギがあいてしまったのか、なぜ扉が開いてしまったのか、いくら考えても分かりません。

「困ったなあ……」

心底、困りました。

部屋の中を見ないようにして、ものすごく気をつけて過ごしてきたというのに……。

私が困っている間も、棚からバンバン物が落ちる音がしています。猫が、めずらしい部屋に入って、興奮して遊んでいると思われます。

私は覚悟を決めて、母の部屋に入りました。

猫は棚によじのぼったらしく、棚の

段ボール箱がひっくりかえって、中の紙が散らばっていました。

母の書いた、なつかしい文字が急に目に飛び込んできて、それだけでくらくらしてきます。

はやく片付けて、日常に戻らなくては！ はやく！

散らばっていたのは、何かの原稿でした。

母が執筆してきた教本の原稿は、すべて保管してありました。『ぴあのだいすき』も、『おんぷの学校』も、すべて箱におさめていました。母の直筆の原稿を、猫がよごしてしまっは困ります。

急いで拾い集めていた私は、驚いて、手を止めます。

見たことがない原稿だったからです。

まだ出版されていない？

そんなはずはありません。でも見たことがない原稿であることは明らかでした。

そして、一度も見たことがないのに、

何の原稿であるのか、1枚見ただけではっきり分かります。

これは、『ピアノの学校』の併用ドリルだ！

私は、焦って拾い集めます。

でもそれは、はやく片付けるためではなくなっていました。

完成しているの？

何枚あるの？

どこまで作ってあるの？

気がつけば私は、棚にあるすべての原稿をひっぱり出し、すべての原稿に目を通していました。箱を出しては、1枚1枚、原稿を確認し、整理し・・・数時間、夢中で作業をしていました。

ところが、残念ながら、ドリルの原稿は、猫が散らかした数枚を含め、1冊にも満たない分量でした。

1巻は、7割くらい、原稿が存在していました。3割くらいは白紙の状態でした。2巻は、最初の3ページしかありませんでした。

それがすべてです。

あきらめきれず、再度、箱をひっくりかえし、同じ作業を最初からやり直しました。

でも、ドリルの原稿が新たに見つかることはありませんでした。

私は、自分が喜ぶべきところなのか、がっかりするところなのか、自分の感情が分からなくなっていました。

よろよろと立ち上がり、全音楽譜出版社に電話をかけます。

全音楽譜出版社は、『おんぷの学校』や『ピアノの学校』等、『すくすくミュージックスクール』シリーズを出版してくれている出版社です。

母の原稿の中には、校長先生があらわれ、しろーくんがあらわれ、母が『すくすくミュージックスクール』シリーズの本として、執筆していたことが分かったからです。

ワーク33 音程ともよみ

この曲には おなじみよりのところが 2かほすつ あります
下の口の中に それぞれの音もをかきましよう
ピアノでも ひいてみましよう

ゆ め

曲 ヲヨルニ
詞 江口 寿子

2かし:

2かし:

42

江口寿子 直筆原稿

「とりあえず、しかるべきところに伝えなければ」と、まわらない頭で考えていました。

長年、全音楽譜出版社で母の担当をしてくれていた方は不在でした。

電話を切ると、頭が整理されてきました。

私は、未発表の原稿を発見したことに興奮して、「全音で出版してもらえるか、勇気を出してきかなければ」と思っていました。だって母は、全音で出版してもらうことを強く望んでいたのでしょうから。

でも、それがすごく身勝手である上、無謀だということに、電話をしてしまったから気がつきます。

まず、原稿がどうしようもなく未完成です。1巻の7割しか存在しない上、一応存在しているページも、メモ書き程度で、完成の形になっていないページがありました。

しかも、著者は、5年も前にこの世を去っているのです！

出版してもらえない可能性が高いと思いました。

私が冷静になったタイミングで、長年、母の担当者だった方が、折り返して電話をくれました。

なつかしい声です。

『音楽の学校』の出版以来ですから、お話しするのは久しぶりなのですが、すべてのあいさつをとばします。

第一声は、こうでした。

「話はききました。うちで出します！」

未完成であることを告げると、絶句してしまいました。

「出せないんですかっ?!」

ほぼ怒っています。

怒られたような形になって、私は反射的に謝りつつ、「私が完成させる」と口が勝手にしゃべっていることに気づきます。

あれ？

いいんだっけ？

できるの？わたし。

担当者は、安心したように、再度、高らかに宣言します。

「うちで出します！」

私は急に不安になっています。

「原稿、見なくていいんですか？」

「だって、ないんでしょ？」

「いや、ちょっとはあるですけど・・・」

「見ますよ？ うん、当然、見ますよ？ で、うちで出します！」

「見ないで今、決めてしまうのは・・・」

「いや、うちで出します！」

「企画を会議に通さないと・・・」

「あ、ああ、ああ、会議ね、会議。会議通して、うちで出します！」

どこか、かみあわない会話の後、最後に担当の方が、深く息をはき、ひとりごとのようにいいました。

「寿子先生が今も生きていらっしゃると思って、私はずっと生きてきました。やっぱり生きていらっしゃったのですね・・・」

担当の方も、私と同様、興奮で我を失っていたように思います。

それから、5年という歳月が経ちました。

『ドリルの学校』では、子どもが力を伸ばしていく様子を木になぞらえることにしました。

木には枝があります。「スケール」、「音程ともようよみ」、「和声」、「読譜」、「拍子」、「リズム」、「楽典」という枝が、それぞれ伸びていきます。伸びるとともに、その先に、1つ、また1つと、実がみのるのです。

気づかないうちに、少しずつ枝が伸び、実が増える仕組みです。



作成段階で、出版社サイドから「単元ごとにまとめた方が、指導者に分かりやすいのでは？」という意見をもらったことがあります。

たとえば、1巻は「もようよみ」、2巻は「和声」というように、内容で分けてしまうというアイデアです。実際、世の中にはそのような作りの教本の方が多いでしょう。

でも、1本の枝を伸ばし終わったら、別の枝が伸びはじめる、そんな不自然な木があるのでしょうか？

概念で分けて、分かりやすいのは、教える側だけです。子どもたちは、「今、ぼくは和声をやっている」なんて、意識はしませんし、意識する必要なんてないと思っています。

「江口メソッド」では、これまでもあえてシャッフルしてきました。少しずつ、すべての枝が伸びるべきです。

どの段階でも、デコボコにならず、バランスよく成長していてほしいのです。

木の形は変わらないけれど、いつのまにか、ひとまわり大きくなっている、そんな成長であってほしいと願っています。

また、『ドリルの学校』では、ページの中に校長先生がいません。

校長先生のお手紙をたよりに、しろーくんやももちゃんや仲間たちが、がんばって勉強する、というストーリーにしてみました。

先生がいないところで、独力でがんばるストーリーにしたのは、子どもたちがおうちで、レッスンを思い出しながらドリルをすることを想定しているからです。

当初、校長先生がいないところでがんばるしろーくんの姿は、おうちでドリルをがんばる子どもたちの姿に重ねたつもりでした。

でも、この5年、私は、母のいないところで、母の残した原稿の断片をたよりに、ドリルを作成してきました。

5年の作業を経て、私はこう感じる

ようになっていきました。

校長先生のいないところで奮闘するしろくんは、ほかの誰でもない、私自身なのではないか。

いつしか、しろくんとももちゃんは、私の戦友のような存在になっていました。

しろくんは、まじめで意欲的な男の子です。

ももちゃんは、ちょっとなまけもので、すぐ分かった気になっちゃう、うっかりさんの女の子です。

2022年2月15日。『ドリルの学校』シリーズが、全国の楽器店の店先にならびました。

私は、戦友として過ごした、しろくんとももちゃんを見送る気持ちです。

しろくん、ありがとう。君のおかげで、5年間、前向きな気持ちで生きることができたよ。

ももちゃん、がんばってね。みんなをよろしく。

いってらっしゃい。

(江口 彩子)



◆「ピアノ・トライ」、「ル・コンセール」、「フォルテの会」に、ご協力をありがとうございました

新年から、イベント続きでした。準備段階では、コロナがおさまっていたのに、開催する頃にまた感染者が急増してしまい、感染防止に神経をとがらせながらの開催となりました。たいへんご不便をおかけしましたが、多くの方にご参加をいただき、盛会となりました。御礼を申し上げます。

「ピアノ・トライ」は、昨年、すべてを動画提出方式とさせていただきましたので、対面式の「ピアノ・トライ」は、2年ぶりでした。久しぶりに、間近で演奏を聴かせていただくことができ、たいへんうれしい日々でした。

「ル・コンセール」は、昨年同様、動画式と対面式のいずれかをお選びいただく形でした。昨年は、半々でしたが、今年は対面式をお選びになった方が圧倒的に多く、ご家族の皆さまが上手にコロナと折り合いをつけつつ、お子さまのイベントを大切にお考えくださっていることを知りました。感謝の気持ちでいっぱいです。

「フォルテの会」は、昨年、無観客開催でしたが、今年は有観客で開催することができました。有観客ではありますが、並行して動画を YouTube でもアップし、ご家庭でも鑑賞いただけるようにしました。

実は「フォルテの会」は、ご参加の方が想定よりずっと多くなっていたため、当日の客席の状況を心配していましたが、皆さまが、客席が密にならないよう、譲り合い、上手に鑑賞してくださったことに、感銘を受けました。一音会は、お客様のマナーも、誇れることの1つです。本当にありがとうございました。



◆「第16回ジュニア・コンサート」を開催します

先号でもお知らせしましたように、「ジュニコン・オーディション」を、リモートでおこないます。3月21日（祝）、午後1時より、「ひびきホール」でオーディションをおこない、その際の演奏を撮影させていただきます。動画をプリドノフ先生ご夫妻が観て、審査をおこないます。

「ジュニコン・オーディション」の結果、選抜された生徒さんによる「ジュニア・コンサート」を、4月27日（水）夕方、大泉学園「ゆめりあホール」で開催いたします。

追って、ポスター等で、詳細をお知らせいたします。感染防止につとめ、安全な開催をお約束いたしますので、どうぞ皆さま、足をお運びください。



◆新年度時間割をお組みしています

新年度希望表のご提出に、ご協力をありがとうございました。現在、みなさまからお出しいただいた希望表をもとに、4月からのレッスン時間割を作成しております。

曜日、時間帯、コースについて、変更を希望された方の多くには、時間割に関するご相談のメールやお電話を差し上げているところだと思えます。少しでも、お一人お一人の生徒さんのご都合にかなう時間割となるよう、努力を続けております。

しかし、物理的にご希望をかなえることが難しい場合もあり、その点は、どうかご理解ください。

たとえば、曜日や時間帯を変更される場合、以前からその日時にレッスンを受けていらっしゃる生徒さんが優先されます。そのため、「そのままの担当で」とご希望をいただいても、同じ担当でお組みできるとはかぎりません。

お忙しいご家族の方が増えていると感じますため、できるかぎりお電話ではなくメールで、用件をお伝えしたいと思っております。ただ、お使いの端末が未登録のアドレスからのメールをブロックしてしまったり、迷惑メールとして処理してしまったり、ということがあります。迷惑メールのフォルダを定期的にチェックしていただけますと幸いです。

メールが届かない場合や、なかなかご返信がいただけない場合は、お電話をさしあげることをございます。お留守だった場合、留守番電話の設定をしてくださっている方には、極力、メッセージを残すようにしています。お手数ですが、ご確認をお願いいたします。

また、最近は留守番電話の設定をしていらっしゃる方も多く、なかなか用件をお伝えできない場合もあります。着信をごらんになって、可能なら本部まで折り返しお電話いただけますと、たいへん助かります【本部：03-5966-7711】。

メールでも電話でも、先にご連絡がついた方から、ご希望が通る形になります。

同じ時間帯、同じ担当で希望される生徒さんが2人以上いらした場合、同じ条件であれば先に連絡をくださった方から決まっていきますこと、ご了承ください。お忙しい中、申し訳ございませんが、何らかのご返信を、おはやめにいただきたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。

以前にお出しくくださった変更希望表に変更が出た場合にも、なるべく早く、ご連絡ください。

◆新時間割をメールでお知らせします

新時間割は、新年度からの担当が、3月30日(水)または31日(木)に、主にメールで、皆さまにお知らせします。重要な事柄ですので、ごらんいただいたことを、確認させていただきたいと思っています。メールをごらんになりましたら、お手数ですがごらんになった旨のご返信を、よろしくお願いいたします。

もし、4月3日になっても何も連絡がいかない場合は、何かの手ちがいが起こっているかもしれませんので、お手数ですが、生徒さんのほうから、本部まで、お電話ください。

この期間、ご旅行などでお留守にされる生徒さんは、モバイルのメールアドレスか電話番号を、事前にお知らせください。ご協力を、重ねてお願い申し上げます。



◆「ドリルの学校」が出版されました

2月15日、全音楽譜出版社より、「ドリルの学校」が出版されました。

「ドリルの学校」は、「ピアノの学校」とセットで使うドリルです。「ピアノの学校」と同様、1巻から6巻まであります。「ドリルの学校①」は「ピアノの学校①」に対応します。

「江口メソード」の教材は、メインテキストと併用ドリルがセットになっています。

「おんぷの学校①②」のドリルは「ピアノのドリル・導入用」です。「おんぷの学校③」のドリルは「ピアノのドリル・1A」、「おんぷの学校④」のドリルは「ピアノのドリル・1B」・・・というように、組み合わせられますが、本来あるべき「ピアノの学校」のドリルは、ながらく存在していませんでした。

すでに「ピアノの学校」のお勉強が進んでいる生徒さんも、現在、おけいこしている巻から「ドリルの学校」を併用してください。くわしくは、担当先生がご案内します。



◆今年のサクラ

今年も、音楽系の進学を果たされた生徒さんがいらっしゃいます。この場をかりて、お祝いを申し上げます。合格、おめでとうございます！

武蔵野音楽大学	(声楽専攻)	1名
国立音楽大学	(声楽専攻)	1名
桐朋学園大学大学院	(ピアノ専攻)	1名



◆新年度のレッスン開始日

新年度最初のレッスン日は、次のようになります。

月曜日・・・・・・・・・・ 4月11日

火曜日・・・・・・・・・・ 4月12日

水曜日・・・・・・・・・・ 4月 6日

木曜日・・・・・・・・・・ 4月 7日

金曜日・・・・・・・・・・ 4月 8日

土曜日（毎週）・・・・・・・・ 4月 9日

土曜日（偶数週）・・・・・・ 4月 9日

土曜日（奇数週）・・・・・・ 4月16日

日曜日（月1回）・・・・・・ 4月17日

日曜日（月2回）・・・・・・ 4月10日

日曜日（月3回）・・・・・・ 4月10日



みなさま、良い春休みをお過ごしください。新年度も、引き続き、どうかよろしくお願いたします。

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。